

インフレと瀑布

十数年前メキシコ国内を旅行中、支払いの度ごとに目をパチクリさせられた。噂に違わずハイピッチで昂進するインフレに出くわして度肝を抜かれたものである。

当時メキシコのインフレは末期的となり、私が訪れる直前に、突然平価を3桁切り下げた。金額の異なる同じ図柄の紙幣が2種類発行されたのである。一見しただけでは、まるで10ペソと10,000ペソの区別がつかない。うっかりすると支払い時に計算を間違いかねない。随分神経を使ったものである。

アフリカ・ジンバブエが国家存亡の危機に瀕している。経済破綻に伴うインフレの昂進が、国家を破滅状態に追い込んでいるのだ。ここには、ザンビアとの国境、ザンベジ川に世界三大瀑布のひとつ、世界遺産・ヴィクトリアの滝がある。イギリス人探検家リヴィングストンが発見した名瀑である。セスナ機から立体的に豪快な滝を見下ろす満足感と、地上でびしょ濡れになりながら臨場感とともに味わう爽快感は、行ってみないと分からない。

ジンバブエのインフレ率は、今年5月僅か1ヶ月間で、4,500%を超えたというから驚異的である。八月には、中央銀行がついに最高額紙幣を発行したというが、その額面が何と200,000ジンバブエ・ドルという天文学的な数字である。しかし、その価値は日本円でほんの1,500円程度だという。IMFの見立てによると、年内にはそのインフレ率は100,000%に達するというのだから、もはや手の施しようがない。

こうなるととぼっちりを受けるのは決まって貧しい庶民である。埃っぽい首都ハラレーの市場は、訪れたときには中々活気があったが、最近の報道では、商店街から物資が姿を消し、商店にはほとんど商品が見当たらないという。

あの名瀑は、轟音とともにいまも変わらず水煙を吹き上げていることだろう。

(近藤)